

孝

經

特 258

243

始



古文孝經序

孔安國

孝經者何也。孝者人之高行。三才章所謂孝天之經地之誼民之行也。經常也。

雖時移代換金石可消而為孝事親者常行存世不滅是即常也。自有天地人民以來而

孝道著矣。上有明王則大化滂流。德化之所及無窮極也。充塞六合。

天地四方謂之六合。若其無也。上無明王也。則斯道滅息。謂無下大化滂流充塞六合者。

當吾先君孔子之世周失其柄。柄政權也。諸侯力爭道德既隱

禮誼又廢。即此道滅息也。至乃臣弑其君子弑其父亂逆無紀莫

之能正。是以夫子每於間居而歎述古之孝道也。夫子敷

先王之教於魯之洙泗。洙泗水名。漢書地理志云魯瀕洙泗之間。門徒三千而達者

七十有二也。史記世家云。教弟子三千焉。身通六藝者七十有二人。貫首弟子顏回。

閔子騫冉伯牛仲弓性也。論語先進篇德行顏淵。閔子騫冉伯牛仲弓。至孝之

自然皆不待諭而寤者也。其餘則怵怵憤憤。述而篇不憤不啓。不悱不發。註云。憤者心求通而未得之意。悱者口欲言而未能之意。若存若亡。謂朝存而夕亡。其德有間斷。

唯曾參躬行匹夫之孝而味達天子諸侯以下揚名顯親之事。因待坐而諮問焉。故夫子告其誼於是。曾子喟然。喟然。嘆聲。

知孝之為大也。遂集而錄之名曰孝經。與五經。詩書易春秋禮記。竝行於世。逮及乎六國。楚燕齊韓魏趙。學校衰廢。及秦始皇焚

書坑儒。孝經由是絕而不傳也。至漢興建元。武帝年號。之初。河

間王得而獻之。凡十八章。即今文字多誤。博士頗以教授。

後魯共王使人壞夫子講堂於壁中。石函得古文孝經

二十二章。載在竹牒。古者以韋編竹。書字。於其上。故曰竹牒。其長尺有二寸。

字科斗。蝦蟆子也。形魯三老。三老。官名。孔子惠抱詣京師。獻之天子。

天子使金馬門待詔學士與博士羣儒。從隸字寫之。還子

惠一通。以一通賜所幸侍中霍光。光甚好之。言為口實。常不

也。時王公貴人咸神秘焉。神祕深也。比於禁方。天下競欲

求學。莫能得者。每使者至。魯輒以人事。饋遺也。請索。或好事

者。募以錢帛。用相問遺。魯吏有至帝都者。無不齎持以

為行路之資。故古文孝經初出於孔氏。而今文十八章。諸

儒各任意巧說。分為數家之誼。誼。義也。淺學者以當六經。五經

加樂是為六經。其大車載不勝。反云孔子無古文孝經。欲朦迷惑也

時人度其為說。誣亦甚矣。吾愍其如此。發憤述而篇發憤忘食精

思為之訓。傳悉載本文。萬有餘言。朱以發經發明經義墨以起

傳起草傳說庶後學者覩正誼之有在也。謂得窺經之正義也今中秘書

皆以魯三老所獻古文為正。河間王所上。雖多誤。然以先

出之故。諸國往往有之。漢先帝高惠文景發詔稱其辭者。皆言

傳曰。其實今文孝經也。昔吾逮從伏生論古文尚書。誼時

學士會云。出叔孫氏叔孫通說漢高祖以興禮樂之門。自道知孝經有

師法。其說移風易俗。莫善於樂。出廣要道章謂為天子用樂省

也。省察萬邦之風。以知其盛衰。衰則移之。移風也以貞盛之教。

淫則移之。以貞固之風。皆以樂。嚴知之。知則移之。故云移

風。易俗。莫善於樂也。又師曠云。吾驟歌南風。多死。嚴楚必

無功。出左傳襄十八年即其類也。且曰。廢民之愚。安能識音。而可

以樂移之乎。當時衆人僉也。以為善。吾嫌其說迂。然無以

難之後。推尋其意。殊不得爾也。不得爾謂無不可也子游為

武城宰。出論語雍也篇作絃歌。以化民。武城之下邑。而猶化之。以

樂。故傳曰。出晉語夫樂以關關音語山川之風。以曜德於廣

遠。風德以廣之。風物以聽之。脩詩以詠之。脩禮以節之。又

曰。出毛詩大序用之邦國。焉用之卿人焉。二之字指樂此非唯天子

用樂明矣。夫雲集而龍興。虎嘯而風起。物之相感。有自然

之理也。

子游為武城宰。作絃歌以化民。武城之下邑。而猶化之。以樂。故傳曰。夫樂以關山川之風。以曜德於廣遠。風德以廣之。風物以聽之。脩詩以詠之。脩禮以節之。又曰。用之邦國。焉用之卿人焉。此非唯天子用樂明矣。夫雲集而龍興。虎嘯而風起。物之相感。有自然之理也。

子游為武城宰。作絃歌以化民。武城之下邑。而猶化之。以樂。故傳曰。夫樂以關山川之風。以曜德於廣遠。風德以廣之。風物以聽之。脩詩以詠之。脩禮以節之。又曰。用之邦國。焉用之卿人焉。此非唯天子用樂明矣。夫雲集而龍興。虎嘯而風起。物之相感。有自然之理也。

子游為武城宰。作絃歌以化民。武城之下邑。而猶化之。以樂。故傳曰。夫樂以關山川之風。以曜德於廣遠。風德以廣之。風物以聽之。脩詩以詠之。脩禮以節之。又曰。用之邦國。焉用之卿人焉。此非唯天子用樂明矣。夫雲集而龍興。虎嘯而風起。物之相感。有自然之理也。

子游為武城宰。作絃歌以化民。武城之下邑。而猶化之。以樂。故傳曰。夫樂以關山川之風。以曜德於廣遠。風德以廣之。風物以聽之。脩詩以詠之。脩禮以節之。又曰。用之邦國。焉用之卿人焉。此非唯天子用樂明矣。夫雲集而龍興。虎嘯而風起。物之相感。有自然之理也。

子游為武城宰。作絃歌以化民。武城之下邑。而猶化之。以樂。故傳曰。夫樂以關山川之風。以曜德於廣遠。風德以廣之。風物以聽之。脩詩以詠之。脩禮以節之。又曰。用之邦國。焉用之卿人焉。此非唯天子用樂明矣。夫雲集而龍興。虎嘯而風起。物之相感。有自然之理也。

者不可謂母也。謂無也。猶言不可。胡茄吟動馬蹠。蹠踏也。而  
悲黃老。謂白髮盡落。更生黃者。之彈嬰兒起舞庶民之愚。愈於胡馬  
與嬰兒也。何為不可以樂化之。經又云敬其父則子說。敬  
其君則臣說。而說者以為各自敬其為君父之道。臣子乃  
說也。余謂不然。君雖不君。臣不可以不臣。父雖不父子。不  
可以不子。若君父不敬其為君父之道。則臣子便可以忿  
之。邪。此說不通矣。吾為傳皆弗之從焉也。

孝經

林長次郎集註

開宗明誼章第一

本章ハ孝經ノ宗旨ヲ説明シ  
孝道ノ大義ヲ開示ス

仲尼間居。曾子侍坐。

(訓詁) 仲尼間居す、曾子侍坐せり。

仲尼ハ孔子ノ字、名ハ丘。間居ハ閑暇、燕居ノ意味ニテ別ニ爲スコトナク打寬  
ギテ居ルコト。

曾子ハ名ハ參、字ハ子輿。孔子ノ門人ニシテ孝道ノ譽高ク實踐躬行ヲ重ンジタ  
ル人ナリ。

子曰。參。先王有至德要道。以順天下。

(訓詁) 子曰はく、參、先王至德要道あり、以て天下を順ふ。

子ハ尊稱ノ辭ニシテ孔子ヲ指ス、以下皆同ジ。  
先王ハ古昔ノ聖王ナリ、王ノ字ハ天地人ノ三劃ヲ貫ク三才一貫ノ象。德ハ得ニ

シテ人心ノ天ヨリ得ルトコロノ理、乃チ仁義禮智信ノ本體。道ハ事物自然ノ理ニシテ仁義禮智信ノ作用乃チ五倫五常ナリ。徳ノ至極ナルモノ道ノ切要ナルモノ孔子之ヲ孝ト稱セリ。順ハ孝道ヲ以テ天下ヲ順ガヘ治ムル義ニテ徳化スルコト。

民用和睦。上下亡怨。女知之乎。

(訓詁) 民用タミモつて和睦ワボクし、上下シヤウカウラミ怨なし。女ナンナ之ヲをコ知るレか。

民ハ民衆ナリ。孝道ヲ以テ天下ヲ徳化スル結果、萬民相和シ、相親シミ、上、天ヲ怨ミズ、下、人ヲ咎メズ國治マリ天下太平トナル。女ハ汝、爾ト同ジ古文ナリ

曾子辟席曰。參不敏。何足以知之乎。

(訓詁) 曾子ソウシ席セキをサ避けて曰はく、參シン不敏フビンなり、何んぞ以て之ヲをコ知るレに

足らん。

師ニ問フトキハ少シ座ヲ退クガ禮ナリ、曾子ガ尙ホ次ノ教ヲ待ツ。不敏ハ遲鈍ナルコト。

子曰。夫孝徳之本也。教之所繇生也。

(訓詁) 子曰はく、夫ソれ孝カウは徳トクの本モトなり。教オシヘの繇ヨツて生セウずる所なり。

孝ハ徳ノ本體ニシテ天ノ經、地ノ誼、乃チ天地生々ノ理ナリ、發シテ人ノ行トナル、仁義禮智信ノ如キ五倫五常ノ道ノ教ハ皆徳ノ本體タル孝ヨリ生ズルナリ。父子親アリ、君臣義アリ、夫婦別アリ、長幼序アリ、朋友信アリ、是レ五常ナリ。

孝ノ文字ノ構成ハ子ノ上ニ老ヲ頂ク、之ニ文ヲ添ヘテ教ノ字トナレリ。

復坐。吾語汝。

(訓詁) 坐ザに復カヘれ、吾ワれ汝ナシチに語カクらん。

復ハ還ニテ自分ノ座ニ還リテ聽ケトノ意。

身體髮膚。受之父母。不敢毀傷。孝之始也。

(訓詁) 身體シントクイハツフ髮膚、之ヲを父母フボに受ウく、敢アヘて毀傷キシヤウせざるは孝カウの始ハジメなり。

祖先ヲ樹ノ根トスレバ父母ハ幹ニシテ我レハ實ヲ結ブ枝ナリ、一朝ノ怒リニ其身ヲ忘ル、ハ傳統ヲ紊スナリ。曾子此教ヲ受ケテヨリ平日常ニ此ノ句ヲ誦ス、

論語泰伯篇ニ曾子疾アリ門弟子ヲ召シテ曰ハク戰々兢々深淵ニ臨ムガ如ク薄氷ヲ履ムガ如シト、而今而後吾レ免ルヲ知ルト門弟子ヲシテ身体ヲ検査セシメタリ。

立身行道。揚名於後世。以顯父母。孝之終也。

(訓詁) 身を立て道を行ひ、名を後世に揚げて、以て父母を顯はすは孝の終なり。

立身、出世ハ人ノ理想ニシテ之ニ到達スルコトハ全人タルコトヲ得タル謂ナリ、全人トハ道器合一ノ身ナリ、形ヨリ上ヲ道ト云フ、形影ナクシテ身ノ主トナリ、形ヨリ下ナルヲ器ト云フ道ノ舍ナリ。

夫孝始於事親。中於事君。終於立身。

(訓詁) 夫れ孝は親に事ふるに始まり、君に事ふるに中し、身を立つるに終る。

大雅云。亡念爾祖。聿脩厥德。

(訓詁) 大雅に云ふ、爾の祖を念ふことなからんや厥德を聿脩む。

敬愛ノ心ハ親ニ對シテ發ス、推汎メ之レヲ以テ君ニ事フレバ忠トナル、忠、孝兩全ニシテ終ニ身ヲ立ツルニ至ル。論語ニハ吾ガ道一以テ之ヲ貫ク曰ク忠恕ノミトアリ、忠ハ中ト心トノ二字ヲ組ミ合ハセタルモノナリ、真心ニシテ敬愛ノ心ナレバ忠孝ハ唯名稱ヲ異ニセルノミ。

天子章第二

本章ヨリ六章迄天子、諸侯、卿大夫、士人、庶人ノ五階級ニ屬スル人々ノ守ルベキ孝道ヲ詳説セルモノナリ、此階級ハ周制ニ依ル支那戰國當時ノモノナリ、文字ニ捉ハレナバ千格スルナラン、活眼ヲ以テ千載不磨ノ眞理ヲ把握スベシ。

子曰。愛親者。不敢惡於人。敬親者。不敢慢於人。

(訓詁) 子曰はく、親を愛するものは敢て人を悪まず、親を敬ふ者は敢て人を慢らす。

親ヲ敬愛スル所以ヲ知レバ天下ニ惡ムベキ人モナク侮ルベキ者モナシ、四海一家兄弟同胞ノ意。敬ハ禮ノ端ニシテ慢ハ敬ノ反ナリ、親ニ事フル敬愛ノ心ハ社界ニ對シテハ恕トナリテ顯ハレ、愛即チ同情心トナリテ動ク。

愛敬盡於事親。然後德敬加於百姓。刑於四海。蓋天子之孝也。

(訓詁) 愛敬親に事ふるに盡くし、然る後德敬百姓に加はり、四海に刑る。蓋し天子の孝なり。

百姓ハ國民ノコト、上古ハ天子ノ族以外ニハ姓ナカリシモ後世國民皆姓ヲ有スルニ至レリ。四海ハ地ノ載ル所、日月ノ照ス所、霜露ノ潤ホス所。令セザレドモ自然ニ化スルヲ刑ルト云フ、刑ハ模範トスルコト。

甫刑云。一人有慶。兆民賴之。

(訓詁) 甫刑に云ふ、一人慶あれば兆民之に賴る。

甫刑ハ尙書ノ篇名ノ呂刑ニシテ穆王呂侯ヲ用ヒテ刑書ヲ作ラシメ天下ニ訓告セルモノナリ。一人ノ天子善德アレバ萬民其ノ慶福ノ餘澤ヲ受ク。兆民ハ億兆ノ民、四民、萬民、庶民、庶民皆同ジ。

諸侯章第三

本章ハ諸侯ノ孝ヲ述ブ

子曰。居上不驕。高而不危。

(訓詁) 子曰はく、上に居て驕らざれば、高くして危からず。

上流ニ居テモ驕ラザレバ其位置ヲ能ク保持スルコトヲ得。之レニ反シ位ニ驕リ、富ニ驕リ、才智ニ驕リ、諫ヲ容レザレバ必ズ其身危シ。

制節謹度。滿而不溢。

(訓詁) 節を制し、度を謹めば、満ちて溢れず。



制節ハ財物ヲ節約スルコト。謹度ハ出所進退等物ノ度合ヲ謹ムコト。財物足りテ之ガ用法、物ノ度合ニ適ヘバ滿ツレドモ溢レズ。公ノ一年ノ藏入ヲ四分シ之レヲ以テ諸用ヲ調ヘ、一ヲ貯ヘトス、之レハ天ノ四時ニ則リ、春生ジ夏長ジ、秋收マリ、冬藏スルニヨル、三年積ミテ一年ノ備ヲナセリ、三十年ニシテ十年ノ用アリ之レヲ通ト云フ。

高而不危。所以長守。貴也。滿而不溢。所以長守。富也。

(訓詁) 高くして危からざるは、長く貴を守る所以なり。満ちて溢れざるは、長く富を守る所以なり。

富貴不離其身。然後能保其社稷。而和其民人。蓋諸侯之孝也。

(訓詁) 富貴其身を離れず、然る後能く其の社稷をたもちて、而して其の民人を和す、蓋し諸侯の孝なり。

社ハ國土ノ神ヲ祭り、稷ハ五穀ノ神ヲ祀ル。社稷ハ國家ト云フ如シ。

詩云。戰戰兢兢。如臨深淵。如履薄氷。

(訓詁) 詩に云ふ、戰々兢兢、深淵に臨むが如く、薄氷を履むが如し。

詩ハ詩經ノ小雅小晏ノ篇ニシテ周ノ大夫ガ幽王ノ邪謀ニ從ヒシヲ刺レル詩。深淵ニ臨ミテ際ランコトヲ恐レ、薄氷ヲ踏ミテハ陷ランコトヲ恐ル、ガ如ク恐懼戒慎シテ孝道ノ及バザルコトヲ常ニ憂慮スルモノハ能ク其身ヲ保ツ。

卿大夫章第四

本章ハ卿大夫ノ孝ヲ述ブ。卿大夫ハ天子ノ公卿又ハ大國ノ家老ナリ。

子曰。非先王之法服不敢服。非先王之法言不敢道。非先王之德行不敢行。

(訓詁) 子曰はく、先王の法服に非ざれば、敢て服せず。先王の法

言にあらざれば、敢て言はず。先王の徳行に非ざれば、敢て行はず。

法服ハ先王ノ定メシ五服ノ制ニヨル、制服ハ品秩ヲ分チ儀禮ヲ表スルモノナレバ之レヲ紊スハ社界ノ秩序ヲ破ルトシ流行ヲ逐ウテ妄リニ改廢スベキモノニアラズ、法言トハ法度禮言ニシテ輕佻浮薄ノ気ナク重厚ノ言語ナレバ妄リニ時代ノ流行語ヲ用ヒザルナリ、徳行トハ道德的作法。

是故非法不言。非道不行。口亡擇言。身亡擇行。言滿天下。亡口過。行滿天下。亡怨惡。

(訓詁) 是故に法に非ざれば言はず、道にあらざれば行はず、口に擇言なく、身に擇行なし。言、天下に満ちて、口過なく、行ひ天下に満ちて、怨惡なし。

口ハ禍ノ門ニシテ行ハ人ノ怨府トナリ易シ、言行ハ慎マザルベカラズ。言、法度ニ叶ヘバ目立チテエリ出ス程ノ言ナク、行、道義ニ合スレバ又別ニエリ出ス

程ノ行ナシ。此ノ如クナレバ天下ニ大呼スルモ口過ナク、大説スルモ怨嗟ヲ招カズ。

三者備矣。然後能保其祿位而守其宗廟。蓋卿大夫之孝也。

(訓詁) 三つのもの備はる。然る後能く其の祿位を保ち而して其の宗廟を守る。蓋し卿大夫の孝なり。

宗ハ尊ナリ、廟ハ親ナリ先祖ノ尊親ノ在マス所、法服ヲ着ケ、法言ニヨリ、徳行ヲ行ヒ此三者備ハルニ於テハ宗廟ヲ守リ、祖先ノ祭祀ヲ絶ヤスコトハナシ。

詩云。夙夜匪懈。以事一人。

(訓詁) 詩に云ふ、夙夜懈らず、以て一人に事ふ。

詩ハ詩經大雅烝民ノ篇。夙夜ハ寤テモ、寐テモ天子ニ事フル道ヲ念フ。

士章第五

本章ハ士人、即チ君侯ニ事フル役人ノ孝ヲ述ブ

子曰。資於事<sub>レ</sub>父。以事<sub>レ</sub>母。其愛同。資於事<sub>レ</sub>父。以事<sub>レ</sub>君。其敬同。故母取<sub>ニ</sub>其愛<sub>一</sub>。而君取<sub>ニ</sub>其敬<sub>一</sub>。兼<sub>レ</sub>之者父也。

(訓詁) 子曰はく、父に事ふるに資つて以て母に事ふ、其の愛同じ。父に事ふるに資つて以て君に事ふ、其の敬同じ。故に母には其愛を取り而して君には其敬を取る。之を兼ねる者は父なり。  
母ニハ愛、君ニハ敬、父ハコノ敬愛ヲ兼ネタリ。

故以<sub>レ</sub>孝事<sub>レ</sub>君則忠。以<sub>レ</sub>敬事<sub>レ</sub>長則順。忠順不失。以事<sub>ニ</sub>其上<sub>一</sub>。然後能保<sub>ニ</sub>其爵祿<sub>一</sub>。而守<sub>ニ</sub>其祭祀<sub>一</sub>。蓋士之孝也。

(訓詁) 故に孝を以て君に事ふれば則ち忠なり。敬を以て長に事ふれば則ち順なり。忠順失はず以て其の上に事ふ、然る後能く其の爵祿を保ち而して其の祭祀を守る、蓋士の孝なり。

孝道ヲ移シテ君ニ事フレバ忠、悌ヲ移シテ長ニ事フレバ順、故ニ忠臣ハ孝子ノ門ニ出ヅ。孝悌ナレバ父母祖先ノ祭祀絶ユルコトナシ。爵ハ爵位、祿ハ扶持米。

詩云。夙興夜寐。亡<sub>レ</sub>忝<sub>ニ</sub>爾所生<sub>一</sub>。

(訓詁) 詩に云ふ。夙に興き夜はに寝ね、爾の所生を忝しむると勿れ。  
詩ハ詩經小雅小宛ノ篇。所生ハ吾人ノ生レ來リタル本源ニシテ父母、祖先、天地是レナリ、故ニ性ハ善ナリ、純ナリ天地ト一貫セルナリ。特ニ沈思熟慮スベシ

庶人章第六

本章ハ衆人ノ孝ヲ述ブ

子曰。因<sub>ニ</sub>天之時<sub>一</sub>。就<sub>ニ</sub>地之利<sub>一</sub>。

(訓詁) 子曰はく。天の時に因り、地の利に就き、

天文、曆算ハ上古政治ノ第一ナリキ、堯ハ義氏和氏ヲ四方ニ置キテ氣象ヲ計ラセ、舜ハ璿璣玉衡ヲ作ラセ曆ヲ命ズ。天ノ時、春生ジ夏長ズルモ天ノ時ニ因レルナリ、星辰ノ運行ガ齋ラス反映。地ノ利、乾濕水陸各々選ムベキモノアリ。

謹身節用。以養父母。此庶人之孝也。

(訓詁) 身を謹み用を節し、以て父母を養ふ、此れ庶人の孝なり。

俸祿ヲ君又侯ニ仰ガザル階級ノ衆人ハ専ラ父母ニ事ヘルコトヲ得ルナリ、孝道ニハ先ツ身ノ健康ヲ欲スルコトガ第一要件ニシテ温、良、恭、儉、讓、内ニ省ミテ疚シカラザレバ患フコトナシ。用ヲ節スハ無用ヲ省クコトニシテ時間精力ノ浪費ヲナサズ、業ニ勵ミテ父母ノ口體ヲ養フ。

孝平章第七

本章ハ孝道ノ平等ニシテ區別ナキ所以ヲ述ブ

子曰。故自天子以下。至於庶人。孝亡終始。而患不及者未之有也。

(訓詁) 子曰はく、故に天子より以下庶人に至るまで、孝終始なし、

而して患ひ及ばざるものは未だこれあらざるなり。

故ニ以下ハ第一章ヨリ第六章ニ述ベシ孝道ノ結論ナリ。天子ヨリ以下庶人ニ至ル迄貴賤尊卑ノ區別アルモ孝道ニ於テ終始セナケレバナラヌ、若シ此ノ道ニ悖ラバ禍難ヲ受クト斷定セリ。

三才章第八

本章ハ天地人三才ニ通ズル孝道ノ原理ヲ述ブ

曾子曰。甚哉孝之大也。

(訓詁) 曾子曰はく、甚しき哉、孝の大いなるや。

甚哉、其ノ大ナルコトヲ贊嘆スル辭。世人孝トハ唯父母ニ事フル道ナリト思考スルモ孝ノ本質ハ深遠ナル天理ニ本ヅク。至德要道ニシテ其ノ作用ハ廣汎ナリ故ニ曾子ノ贊嘆セル亦宜ナラズヤ。

子曰。夫孝。天之經也。地之義也。民之行也。

(訓詁) 子曰く。夫れ孝は天の經なり。地の義なり。民の行なり。

經ハ常、義ハ宜、行ハ由ル所ノ道ナリ。經、義、行ハ天地人三才ノ道ノ象ナリ、合シテハ孝ノ一理ニ歸ス。星辰ノ運行スルハ天ノ道、地儀ノ轉回スルハ地ノ道、人ノ由テ進ムハ人ノ道ナリ。天ノ陽光ヲ以テ物ヲ生ズ是ハ天ノ常ナリ、物ニ經緯アリトミテ常道ヲ經ト云ヒシナリ。地ハ雨露ヲ天ニ承ケ、地ノ宜シキニ應ジテ物ヲ生ズ。人ハ此ノ天地ノ性ヲ受ケテ敬愛ノ心生ズ、是レ人ノ行ナリ。

天地之經而民是則之。

(訓詁) 天地の經にして民是に之に則る。

是ハ古ハ寔(マコト)ニ通用セリ。則ハ法則ニシテ手本トシテ眞似ルコト。

則天<sub>ニ</sub>之明。因地<sub>ニ</sub>之利。以順<sub>ニ</sub>天下<sub>一</sub>。

(訓詁) 天の明に則り、地の利に因り、以て天下を順ふ。

覆テ漏ラサザルナキハ天ナリ、載セテ棄テザルハ地ナリ。

是<sub>レ</sub>以其教不<sub>レ</sub>肅而成。其政不<sub>レ</sub>嚴而治。

(訓詁) 是を以て其教肅ならずして而して成る、其政嚴ならずして而して治まる。

教化ノ様式ハ簡易ナルモ天地自然ノ理ニ依リテ設ケシ法ナレバ敬肅ヲ裝ハズトモ覺リ易ク親シミ易シト云フ意。

先王見<sub>ニ</sub>教之可<sub>ニ</sub>以化<sub>レ</sub>民也。

(訓詁) 先王教の以て民を化すべきを見る。

古ノ聖天子ハ孝道ニヨリテ教化スベキ所以ヲ業ニ既ニ看破セラレ。

是故先<sub>レ</sub>之以<sub>ニ</sub>博愛<sub>一</sub>。而民莫<sub>レ</sub>遺<sub>ニ</sub>其親<sub>一</sub>。

(訓詁) 是故に之に先んずるに博愛を以てす。而して民其の親を遺るゝことなし。

博愛ハ仁ナリ、仁ト孝トハニシテ一ナリ、愛ハ天ノ心ニシテ人ノ性ナリ。

陳<sub>レ</sub>之以<sub>二</sub>德義<sub>一</sub>。而民興行。

(訓詁) 之<sub>コレ</sub>に陳<sub>シ</sub>くに德義<sub>トクギ</sub>を以<sub>モツ</sub>てす。而<sub>シカウ</sub>して民興<sub>タミオコ</sub>り行<sub>オコナ</sub>ふ。

陳ハ布ナリ布教ノ意、ノブルト解スルハ安富ナラズ興行モ行ヲ興スト讀ムハ安富ナラズ、興起ストハ例ヘバ窮屈ニ堅クナリタル者モ柳下惠ノ風ヲ聞キテハ寛ナル心生ジ頑ニ愆心ナルモノモ伯夷ノ風ヲ聞キテハ潔白ノ心勃然トシテ起ルガ如キヲ云フ。

教化宣傳スルニ德義ヲ以テス、義ハ事ノ宜シキナリ物ノ善惡是非ヲ分ツヲ義ト謂フ、義ハ智能的心理ニシテ、仁ハ情的心理、孔子ハ情的心理ヲ説キ孟子ハ常ニ智的心理ヲ説ク。博愛ノ道以テ導キ其意義ヲ智的ニ説キ以テ教化スル結果民ハ發奮興起シテ敬愛ノ心ヲ致ス。

先<sub>レ</sub>之以<sub>二</sub>敬讓<sub>一</sub>。而民不<sub>レ</sub>爭。

(訓詁) 之<sub>コレ</sub>に先<sub>サキ</sub>ずるに敬讓<sub>ケイザヤウ</sub>を以<sub>モツ</sub>てす。而<sub>シカウ</sub>して民爭<sub>タミアラツ</sub>はず。

卒先シテ上タル者敬讓ノ心ヲ以テ、父母祖先ヲ敬シ己ヲ慎シミ天職ヲ守レバ下自ラ之ニ習フ恰モ草ノ風ニ靡クガ如シ。

諫鼓訪木ヲ置キテ民意ヲ問ハ、天下爭ナカラシム。

道<sub>レ</sub>之以<sub>二</sub>禮樂<sub>一</sub>。而民和睦。

(訓詁) 之<sub>コレ</sub>を導<sub>ミチビ</sub>くに禮樂<sub>レイガク</sub>を以<sub>モツ</sub>てす。而<sub>シカウ</sub>して民和睦<sub>タミワ</sub>す。

禮ハ其行ヲ節シ樂ハ其性ヲ和ラゲ。禮樂ハ治國ノ用具三千ノ儀禮六律八音ノ樂ハ載セテ禮記ニ詳ナリ。

示<sub>レ</sub>之以<sub>二</sub>好惡<sub>一</sub>。而民知<sub>レ</sub>禁。

(訓詁) 之<sub>コレ</sub>に示<sub>シメ</sub>すに好惡<sub>カウアク</sub>を以<sub>モツ</sub>てす。而<sub>シカウ</sub>して民禁<sub>タミケン</sub>を知る。

民ニ示スニ善ノ當ニ好ムベク、惡ノ當ニ憎ムベキヲ以テスレバ禁令ヲ犯スモノナカラシム。成湯ハ賞シテ罰セズ。論語ニ直キヲ揚ゲテモロクノ曲レルモノヲ捨テ置クト謂ヘリ、賞罰ヲ明ラカニスルヲ以テ政トスルハ孝道ノ行ハレザルガ故ナリ。

詩云。赫赫師尹。民具爾瞻。

(訓詁) 詩に云ふ。赫々<sub>カクク</sub>たる師尹<sub>シイン</sub>、民<sub>タミ</sub>ともに爾<sub>ナシ</sub>を瞻<sub>シ</sub>る。

詩ハ詩經小雅節南山ノ篇ニシテ周ノ幽王ノ大夫ガ大師ノ尹氏ヲ用ヒテ亂ヲナセシヲ刺リタル詩ナリ、赫々ト權勢ノ顯ハレテ盛ナル大師ノ如キ高位ニアル尹氏

ニ對シテハ一般民衆ノ注意シテ觀テ居ルコト恰モ節トシテ高峻ナル南山ヲ見ルガ如キモノナレバ其行動慎マザルベカラズトノ意

孝治章第九

本章ハ孝道ヲ以テ天下ヲ治ムル所以ヲ述ブ

子曰。昔者明王之以<sub>レ</sub>孝治<sub>ニ</sub>天下<sub>一</sub>也。不<sub>三</sub>敢遺<sub>ニ</sub>小國<sub>一</sub>之臣。而況於<sub>ニ</sub>公侯伯子男<sub>一</sub>乎。

(訓詁) 子曰はく、昔明王の孝を以て天下を治むるや、敢て小國の臣を遺れず、而るを況んや公侯伯子男に於てをや。

古ノ明哲ナル君ガ孝道ヲ以テ天下ヲ治ムルニ方リテハ小國ノ臣ニ對シテサヘ尊敬ノ意ヲ表セリ況ンヤ公侯伯子男ニ對シテハ勿論之ヲ敬セリノ意周ノ制度ニヨレバ公侯ハ方百里、伯ハ七十里、子男ハ五十里、以下ハ大國ニ附屬ス、之ヲ附庸ト謂フ小國ノ臣トハ附庸國ノ臣ナリ。

又周制ハ封地ノ大小ヲ軍ノ車輛ニ依リテ示スコトアリ萬乘ノ國ハ天子ナリ、千乘ノ國ハ方百里ノ公侯ナリ百乘ノ國ハ方七十里ノ伯ナリ方五十里ノ子男モ百乘ヲ出ス一乘ハ士三人卒七十二人ナリ戰國時代即チ孔孟ノ時ニ於テハ周ノ制度素レ齊楚ノ如キ大國ハ潛越ニモ萬乘ノ兵ヲ出セリ故ニ小諸侯ナリト雖モ千乘又ハ

百乘ノ車輛ヲ動かシタルコトアリキ。

故得<sub>ニ</sub>萬國之權心<sub>一</sub>。以事<sub>ニ</sub>其先王<sub>一</sub>。

(訓詁) 故に萬國の權心を得て、以て其の先王に事ふ。

天下異心ヲ挾マズシテ社稷宗廟ノ祭祀ヲ行フガ故ニ先王ノ神靈モ納受シ玉フ。

治<sub>レ</sub>國者。不<sub>三</sub>敢侮<sub>ニ</sub>於鰥寡<sub>一</sub>。而況於<sub>ニ</sub>士民<sub>一</sub>乎。

(訓詁) 國を治むる者は敢て鰥寡を侮らず、而るを況んや士民に於いてをや。

老イテ妻ナキヲ鰥トイヒ、老イテ夫ナキヲ寡ト謂フ。天下ノ窮民ヲモ侮ラズ。

故得<sub>ニ</sub>百姓之權心<sub>一</sub>。以事<sub>ニ</sub>其先君<sub>一</sub>。

(訓詁) 故に百姓の權心を得て、以て其の先君に事ふ。

百姓ハ一般民衆ナリ。民ノ幸福ナルコトヲ得レバ先君ニ事ヘル道ノ立チシトノ意。

治<sub>レ</sub>家者。不<sub>三</sub>敢失<sub>ニ</sub>於<sub>二</sub>臣妾之心<sub>一</sub>。而況於<sub>二</sub>妻子<sub>一</sub>乎。

(訓詁) 家ヲ治ムル者ハ敢テ臣妾ノ心ヲ失はず、而るを況んや妻子に於いてをや。

故得<sub>二</sub>人之懼心<sub>一</sub>。以事<sub>三</sub>其親<sub>一</sub>。

(訓詁) 故に人の懼心を得て、以て其の親に事ふ。

夫然。故生則親安<sub>レ</sub>之。祭則鬼享<sub>レ</sub>之。

(訓詁) 夫れ然り故に生には則ち親之に安んじ、祭には則ち鬼之を享く。  
天下、國、家ノ三者ヲ孝道ヨリ治ムレバ親、在世中ハ親、自ラ之ニ安ンジ、親、没シテ祭祀ヲ行フニ際シテハ其ノ魂來格スルノ意。

是以天下和平。災害不生。禍亂不作。故明王之

以<sub>レ</sub>孝治<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>也。如此。

(訓詁) 是を以て天下和平、災害生せず、禍亂作らず、故に明王之孝を以て天下を治むるや此の如し。

天下國家ヲ治ムル上述ノ三節ヲ結ブ。災害ハ變ナリ、人心ノ乖戾ニヨリテ生ズ、禍亂ハ不幸ナリ和平ヲ缺グニヨリテ生ズ。

詩云。有<sub>二</sub>覺德行<sub>一</sub>。四國順<sub>レ</sub>之。

(訓詁) 詩に云ふ。覺たる德行あれば、四國これに順ふ。  
詩ハ大雅抑ノ篇ニシテ衛ノ武公ノ自ラ警ムル詩ナリ。覺ハ直大ノ意、德行アレバ環境ノ順應スル意。

聖治章第十

本章ハ聖人治教ノ道ヲ述ブ

曾子曰。敢問。聖人之德亡<sub>三</sub>以加<sub>二</sub>於孝<sub>一</sub>乎。

(訓詁) 曾子曰はく、敢て問ふ、聖人の德、以て孝に加ふることな



からんか。

敢て問フ、達ツテオ尋ネ致スノ意。聖人ノ聖徳ハ孝ヲ超ヘシ何事カアルヤト問フ。

子曰。天地之性人爲貴。人之行莫大於孝。

(訓詁) 子曰はく、天地の性、人を貴しとす。人の行、孝より大なるはなし。

天地ノ性ヲ受ケテ此世ニ生レタルモノ無數ナルモ只獨リ人ヲ貴トス。人ノ行ヒ多端ナルモ孝ヨリ大ナルハナシトノ意。

性ハ天地生々ノ心ニシテ形ハレザル時ハ生々ノ理ノミナリ、佛者ノ所謂第一義諦ナリ、聲モナク臭モナシ。形ハレシモノ、中ニテ人ヲ萬物ノ靈長トスルハ惻隱ノ心アルガ故ニシテ之ヲ推汎ムレバ仁トナル犬馬ト雖モ尙ホ能ク親ヲ養フモノアルモ敬愛ヲ以テ事ヘルコトナク五倫五常ノ行ヒニ發スルハ獨リ人ノミナレバ人ヲ貴トス。

孝莫大於嚴父。嚴父莫大於配天。則周公其

人也。

(訓詁) 孝は父を嚴にするより大なるはなく、父を嚴にするは天に配するより大なるはなし。則ち周公その人なり。

嚴ハ尊嚴ニスルノ意、尊敬ナリ。配天トハ天ヲ祭ル時ニ併セテ父ノ靈ヲ祭ルコト、此ノ如クナシタル人ハ周公其人ナリ。周公ハ名ハ且、文王ノ子、武王ノ弟ニシテ孔子ノ理想トセル人物ナリ。一般ノ人民ハ天ヲ祭ルコトナキヲ以テ若シ此ノ如ク天ト父トヲ配合シテ併セ祭ルコトヲナセバ潛上ノ甚シキモノナリトノ説アルモ一般ノ民ハ天ニ對スルト同ジキ尊敬ノ心ヲ以テ父ニ對スレバ可ナリ何ゾ必ズシモ形式的解釋ニ把ハル、要アラン。

昔者。周公郊祀后稷。以配天。宗祀文王於明堂。以配上帝。

(訓詁) 昔、周公后稷を郊祀して以て天に配し。文王を明堂に宗祀

して、モツ ショウウチイ ハイ以て上帝に配せり。

后稷ハ周ノ始祖ニシテ舜ノ臣五穀ノ神ナリ。郊祀トハ天ヲ祭ルコト、冬至ニ天ヲ南郊ニ祭ル故ニ郊祀ト謂フ。明堂トハ政治ヲ執ル所ノ堂ナリ天子南面シテ政ヲ執ル故ニ明堂ト謂フ。宗祀トハ宗廟ヲ祭ルノ禮ヲ以テ祀ルコト。上帝ハ天ナリ萬物ヲ主宰スルノ意。

是以。四海之内各、以其職來助祭。聖人之德。又何以加乎孝乎。

(訓詁) ココ モツ シカイ ウチ オノノツ シヨク モツ キタ マツリ タス是を以て、四海の内、各々其の職を以て來つて祭を助く。

聖人の德、また何を以て孝に加へんや。

天下ノ人夫々本務的ニ奉仕ス。聖人ノ德ハ又ドウシテ孝ヨリ大ナルモノナランヤ、孝ヨリ超ヘタル大ナルモノハナイトノ意。

是故親生之膝下。以養父母。日嚴。

(訓詁) ココ ユエ シタシミ コレ シツカ シヤウ ヒビ ゲン是の故に親は之を膝下に生ず、以て父母を養ふ、日々に嚴

なり。

母胎ヲ下リテ赤子ノ純一無雜ノ心ヲ親ハ本能的ニ愛シテ養フ生長シテ膝下ニ嬉戯スルヨリ神知漸ク啓ケテ尊敬ノ念ヲ以テ孝養ヲ盡ス、親シミニ狎レズ日ヲ追ヒ尊敬ノ度加ハルトノ意。

聖人因嚴以教敬。因親以教愛。

(訓詁) セイジンゲン モツ ケイ ラシ シタシミ モツ アイ ラシ聖人嚴によりて以て敬を教へ、親によりて以て愛を教ふ。

嚴、敬、親、愛ハ性ノ固有ナリ、木火土金水ノ五行聚リテ物トナル、人ハ五行ノ秀気ナレバ五氣ノ神靈自ラ備ハル親愛ハ木氣、嚴敬ハ火氣。

聖人之教不肅而成。其政不嚴而治。其所因者本也。

(訓詁) セイジン ラシ シユク シカウ ナ ソ マツリゴトゲン聖人の教へ、肅ならずして而して成る、其の政、嚴ならず

して而して治まる、其因る所のもの本なればなり。

聖人ノ教ヲ設ケラルルハ人ノ本性ニ縁ル、故ニ威令ヲ加ヘズシテ教成リ刑辟ヲ加ヘズシテ治マル。

父母生績章第十一

本章ハ父母所生ノ  
恩績ヲ述ブ

子曰。父子之道天性也。君臣之義也。

(訓詁) 子曰はく、父子の道は天性なり。君臣の義なり。

慈孝ノ道ハ外ヨリ教フルニアラズ、梅花開ケテ清香自ラ發スルガ如シ、子ガ親トナリテ傳統相續キ人類絶ユルナキハ造化ノ轉々トシテ息マザルガ如シ孔子川ノ上(ホトリ)ニ在リテ逝ク者ハ斯ノ如キ晝夜ヲ舍(ヲカズ)ト述ベラレタルガ如シ流水流レテ止マズ蕩々トシテ後水又前水ニアラズ其ノ如ク親ニ萬年ノ親ナク子ニ萬年ノ子ナシト雖モ生々ノ本タル天地ハ萬古ニ替ハラズ然カモ敬愛ノ心ヲ生ジ尊嚴ヲ加ヘルトイフコトニ至ツテハ君子ノ義デアルトノ意。

父母生之。績莫大焉。

(訓詁) 父母之れを生む。績これより大なるはなし。

父母ノ子ヲ生ムヤ之ヲ撫育シ教導スル功ハ大ナリ。

君親臨之。厚莫重焉。

(訓詁) 君親しみて之に臨む、厚きこと焉より重きはなし。

君親シミテ臣下ニ對ス慈父ノ如シ、君恩ノ厚キコト是ヨリ重キハナシ。

孝優劣章第十二

本章ハ孝ト不孝トヲ對比シ  
其優劣ヲ述ブ

子曰。不愛其親。而愛他人者。謂之悖德。不敬其親。而敬他人者。謂之悖禮。

(訓詁) 子曰はく、其親を愛せず、而して他人を愛するもの、之を

悖德といふ。其の親を敬せず而して他人を敬するもの之を

悖禮といふ。

悖德ハ逆德ナリ、悖禮ハ逆禮ナリ、本末顛倒セルナリ、禮ニアラズ。

以順則。逆民亡則焉。

(訓詁) 順を以てすれば則る。逆なれば民則ることなし。

悖德、悖禮ニアラズシテ順ナレバ民之ニ則リ逆ナレバ則ルコトナシ、王道ニヨラズ單ニ權道ニヨリテ國ヲ治メントスル齊桓、晋文ノ霸道ハ君子用ヒズ。

不宅於善。而皆在於凶德。雖得志。君子弗從也。

(訓詁) 善に宅らず、而して皆凶德にあらば志を得ると雖も君子

は從はざるなり。

孝悌、敬順ヲ美德トシ、昏亂無法ヲ凶德トス。

君子則不然。言思可道。行思可樂。

(訓詁) 君子は則ち然らず、言は道ふべきを思ひ、行は樂しむべきを思ふ。

君子ハ衆ノ心ヲ收ムト雖モ仁慈ヲ街フコトナシ、言ハバ必ず道ニ當ランコトヲ念トシ行ヘバ衆ト共ニ樂シマンコトヲ思フ。

德義可尊。作事可法。

(訓詁) 德義尊むべく、作事法るべし。

德義ハ皇天ニ感通ス。楚ノ孫叔敖、幼時途ニ兩頭ノ蛇ヲ見ル。其時代ニ兩頭ノ蛇ヲ見ル者ハ、必ず死スト傳フ、孫叔敖思ヘラク我ハ既ニ之ヲ見タル故、死スルコト已ムヲ得ザルモ、若シ此儘ニ捨置カバ、患ヲ遺シテ又他人ノ目ニカ、ラムト。是ニ於テ直チニ其蛇ヲ殺シテ之ヲ埋メタリ、成人ノ後、莊王ニ事ヘテ令尹ノ官ニ就キ政ヲ執ルニ至レリ。事ヲ作サバ須ラク天理ニ循フベシ。

容止可觀。進退可度。

(訓詁) 容止觀るべく、進退度とすべし。

容ハ一身ノ諸容ナリ、頭容ハ直、口容ハ止、手容ハ恭、足容ハ重ト云ヘリ、止ハ言ヲ慎シム貌ナリ、一身ノ容ハ言ヨリ重キハナシ故ニ止ヲ擧ゲテ直恭重ヲ兼ネシメタリ、仁ニ進ミ智ニ退キ、義ニ進ミ禮ニ退ク、要スルニ容止ハ威儀ナリ、進退トハ動靜ナリ進退ノ作法ヲ越ヘザルヲ以テ度トスベキナリ。

以臨其民。是以其民畏而愛之。則而象之。

(訓詁) 以て其民に臨む。是を以て其民畏れて而して之を愛す、則つて而して之に象ざる。

言、行、徳、義、進、退此ノ六ノ道ヲ以テ民ニ臨ム。

故能成其徳教。而行其政令。

(訓詁) 故に能く其の徳教をなし、而してその政令を行ふ。

道ヲ以テ人ヲ誨フヲ教トイフ。

詩云。淑人君子。其儀不忒。

(訓詁) 詩に云ふ。淑人君子、其の儀忒はず。

詩ハ國風、鴈鳩ノ篇、淑人ハ善人、君子ハ道德アル人ノ稱ナリ、淑人、君子威儀差ハズシテ人ノ模範トナルノ意。

紀孝行章第十三

本章ハ親ニ事フル行事ヲ記録ス

子曰。孝子之事親也。居則致其敬。養則致其樂。

(訓詁) 子曰はく、孝子の親に事ふるや、居には則ちその敬をいた

し、養には則ち其の樂をいたす。

居、平居無事ノトキニハ敬愛ノ心ヲ盡シ、奉養ニハ親ノ心ヲ充タスノ意。

病則致其憂。喪則致其哀。祭則致其嚴。

(訓詁) 病には則ち其の憂を致し、喪には則ちその哀を致し、祭に

は則ちその嚴を致す。

喪ハ父母没後三年ノ喪(モ)ヲ謂フ。哀ハ哀戚思慕ノコト。肅ハ尊嚴、嚴肅ノコト。

五者備矣。然後能事其親。

(訓詁) 五つのもの備はり、然る後能くその親に事ふ。

敬、樂、憂、哀、嚴ノ五ツノ行。

事親者。居上<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>驕。爲下<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>亂。在醜<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>爭。

(訓詁) 親に事ふる者は、上に居て驕らず、下となりて亂れず、醜

にありて争はず。

醜ハ衆ナリ朋友、同類ノコト。

居上<sub>レ</sub>而驕則亡。爲下<sub>レ</sub>而亂則刑。在醜<sub>レ</sub>而争則兵。

(訓詁) 上に居て驕れば則ち亡ぶ、下となりて亂れば則ち刑せらる、

醜にあつて争へば則ち兵せらる。

亡ハ滅亡。刑ハ刑罰ヲ加ヘラル、コト。兵ハ兵刃ヲ加ヘラル、コト。

此三者不<sub>レ</sub>除。雖<sub>三</sub>日用<sub>二</sub>三牲之養<sub>一</sub>猶爲<sub>二</sub>不孝<sub>一</sub>也。

(訓詁) 此の三つのもの除かざれば、日に三牲の養を用ふといへど

もなほ不孝となるなり。

驕、亂、争ノ三ツノ惡事ハ身ヲ失ヒ家ヲ亡ス凶德ナリ。三牲(牛、羊、豕)ノ大宰ノ美ヲ盡シテ父母ヲ養フモ猶ホ且ツ不孝ナリ。

五刑章第十四

本章ハ五刑ヲ説キテ不孝ノ罪ノ大ナルヲ述ブ

子曰。五刑之屬三千。而罪莫<sub>レ</sub>大<sub>ニ</sub>於不孝<sub>一</sub>。

(訓詁) 子曰はく、五刑の屬三千、而して罪不孝より大なるはなし。

五刑ハ墨、劓、剕、宮、大辟ナリ。墨ハ額ニ入レ墨スルコト、劓ハ鼻ヲキリ、剕ハ足ノ筋ヲ絶チ、宮ハ淫刑、大辟ハ死罪。

五刑ニ夫々三千ノ附屬刑アリ其ノ中不孝ハ最モ大罪ナリトノ意。

要<sub>レ</sub>君者亡<sub>レ</sub>上。非<sub>二</sub>聖人<sub>一</sub>者亡<sub>レ</sub>法。非<sub>レ</sub>孝者亡<sub>レ</sub>親。

(訓詁) 君を要する者は、上を亡みし、聖人を誹るものは法を亡みし、孝を誹るものは親を亡みす。

要スルハ脅カシテ從ハザルヲ得ザラシムルコト、平清盛ノ類。聖人、君父、ヲ非議スル無法者即チ天子ヲ天子トモ思ハズ、法ヲ法トモ思ハズ親ヲ親トモ思ハザル者。

此大亂之道也。

(訓詁) 此れ大亂の道なり。

身ヲ賤シクスルコトヲ厭ヒ、心ヲ賤シクスルコトヲ厭ハズ。身ノ尊カラシムコトヲ欲シ、心ノ尊カラシムコトヲ欲セズ、斯ルモノニヨリテ大亂ヲ導ク。

廣要道章第十五

本章ハ第一章ノ至德要道ヲ推廣メテ再説ス

子曰。教民親愛。莫善於孝。

(訓詁) 子曰はく、民に親愛を教ふるは、孝より善きはなし。

親愛ノ心初メテ父母ニヨリ啓ク、五倫ハ皆孝ノ道ヨリ出ヅ。

教民禮順。莫善於弟。

(訓詁) 民に禮順を教ふるは、弟より善きはなし。

大父母タル天地、自然ヨリ見ルトキハ年長者ハ皆兄ナリ弟ハ弟ニシテ兄ヲ敬フコト。

移風易俗。莫善於樂。

(訓詁) 風を移し俗を易ふるは、樂より善きはなし。

風ハ上ノ化ノ及ブ所、俗ハ下ノ習トナル所。上ノ行ニ下倣フコトガ風ナリ民ノ習定マルコトヲ俗ト云フ。樂ハ金石糸竹ノ類ニテ翕合放縱シ清濁高下五味相濟シテ和スルナリ風俗ヲ變易セシムルニハ音樂最モ良シトナス。

安上治民。莫善於禮。

(訓詁) 上を安んじ民を治むるは、禮より善きはなし。

禮ハ吉、凶、軍、賓、賀ノ五ツアリ。吉ハ祭禮、凶ハ喪禮、軍ハ軍法、賓ハ主客ノ往來ノ禮、夫婦ノ道モ賓禮ナリ、賀ハ冠婚其他祝事ノ禮。

禮者敬而已矣。

(訓詁) 禮とは敬のみ。

禮ニ本末アリ、敬ハ禮ノ本ナリ。樂ニモ本末アリ、和ハ樂ノ本ナリ。禮ノ用ハ和ヲ貴シトス、和ナケレバ禮行ハレズ、敬ナケレバ樂成ラズ。

故敬其父則子說。敬其兄則弟說。敬其君則臣說。

(訓詁) 故に其父を敬すれば則子說ぶ、其兄を敬すれば則弟

說ぶ、其君を敬すれば則臣說ぶ。

說ハ悅ト同ジク音(エツ)ナリ、說クト讀ムトキハ(セツ)遊說ノ熟字トナリ天下ヲ周遊シテ說キ巡ルトキハ音(ゼイ)

敬一人而千萬人說。所敬者寡。而說者衆。此之謂要道也。

(訓詁) 一人を敬して而して千萬人說ぶ、敬する所の者は寡く、而

して說ぶもの衆し、此れ之を要道といふ。

敬スベキ所以ヲ知レバ其生ヲ知ルコト、ナル。要道トハ道ノ切要ナルモノ其事簡ナルモ其功ハ廣シ、論語ニ朝ニ道ヲ聞テ夕ニ

死ストモ可ナリ、道ヲ知ラザレバ人ニ非ズ。

廣至德章第十六

本章ハ第一章至徳ヲ推廣メテ再說ス

子曰。君子之教以孝也。非家至而日見之也。教以孝。所以敬天下之爲人父者也。教以弟。所以敬天下之爲人兄者也。教以臣。所以敬天



下之爲人君者也。

(訓詁) 子曰はく、君子の教ふるに孝を以てするや、家ごとに至りて日に之を見るに非ず、教ふるに孝を以てするは天下の人の父たる者を敬する所以なり。教ふるに弟を以てするは、天下の人に兄たるものを敬する所以なり。教ふるに臣を以てするは天下の人の君たる者を敬する所以なり。家毎ニ至リテ日毎ニ教フルニアラザルモ、上ノ行フ所下、自カラ之ニ倣フ。

詩云。愷悌君子。民之父母。

(訓詁) 詩に云ふ、愷悌たる君子は、民の父母なり。詩ハ大雅洞酌ノ篇ニシテ召ノ康公成王ヲ戒ムル詩ナリ、愷ハ樂ナリ、悌ハ易ナリ。

非至徳。其孰能順民。如此其大者乎。

(訓詁) 至徳に非ざれば其れ孰かよく民を順ふること、此の如く其れ大なるものあらんや。孝道ニヨリ天下ヲ治ムレバ民衆順和セザルコトナシ。

應感章第十七

本章ハ天人同原幽明一理ノ義ヲ明カニシ天人孝徳感應ノ狀ヲ述ブ

子曰。昔者明王事父孝。故事天明。事母孝。故事地察。

(訓詁) 子曰はく、昔明王父に事ふるに孝、故に天に事ふるに明。母に事ふるに孝、故に地に事ふるに察なり。

上ニ在リテ覆育ノ惠ミ大ナルハ天、下ニ在リテ化育ノ恩厚キハ地ナリ。天地ノ恩ハ父母ノ恩ニ異ナラズ、明王ハ天ヲ父トシ、地ヲ母トシ父母ニ事フル孝道ノ心掛ヲ以テ天地ニ事フ。天地ノ心ハ理ナリ、理ニ順フコトガ天地ニ事フルノ道ナリ。

明ハ明察、聰明睿智昭ラサル所ナシ、察ハ工夫細精周ネカラザル所ナシ。

長幼順。故上下治。

(訓詁) 長幼は順なり、故に上下治まる。

長幼ノ節ニ順ヘバ上下序アリ親疎別アリテ紊レズ。

天地明察。神明章矣。

(訓詁) 天地明察なれば神明彰はる。

天地ノ理ヲ解スレバ三才ノ道立チ神明ノ德顯ハル。陰陽和スレバ人ニ疾病ナク禍災生ゼズ。

故雖天子。必有尊也。言有父也。必有先也。言

有兄也。必有長也。

(訓詁) 故に天子と雖も必ず尊ぶことあるは、父あるを言ふ。必ず

先んずることあるは、兄あるをいふ。必ず長有るなり。

宗廟致敬。不忘親也。脩身慎行。恐辱先也。宗

廟致敬鬼神著矣。

(訓詁) 宗廟に敬を致すは親を忘れざるなり、身を脩め行を慎むは

先を辱しめんことを恐るゝなり、宗廟に敬を致せば鬼神著はる。

孝子ハ親ヲ死セリトセズ、故ニ死ニ事フル如ク、亡ニ事フル存ニ事フルガ如ク、宗廟ニ至誠ノ心ヲ込メ敬神ノ念ヲ盡セバ父母、先祖ノ鬼神來格シテ祭ヲ受ク。

孝悌之至。通於神明。光於四海。亡所不通。

(訓詁) 孝悌カウテイの至イタり、神明シンメイに通ツウじ四海シカイに光アカラかなり、通ツウせざる所トコロなし。

天地感應ノ理ヲ説ク。

詩云。自西自東自南北。亡思不服。

(訓詁) 詩シに云イふ、西より東より南より北、思オモうて服フクせざるなし。

詩ハ大雅、文王有聲ノ篇ニシテ文王天命ヲ享ケ、武王之ヲ紹述セシコトヲ述ベタル詩ナリ。

東西南北四方ヨリ來リテ文、武二王ノ孝徳天命尊崇ノ狀ヲ見テ來服思慕セザルモノナシトノ意。

廣揚名章第十八

本章ハ身ヲ立テ名ヲ揚ゲル意ヲ述ブ

子曰。君子事親孝。故忠可移於君。

(訓詁) 子曰はく、君子親クンシヤに事フカふる孝カウなり、故ユエに忠チウ、君キミに移ウツすべし。

親ニ事ヘテ敬愛ノ誠アレバ君ニ事ヘテ敬忠ナリ。

事兄弟。故順可移於長。

(訓詁) 兄アニに事ツカへて悌テイなり、故ユエに順ジュン、長チャウに移ウツすべし。

居家理。故治可移於官。

(訓詁) 家カに居イては理オサむ、故ユエに治チ、官クワンに移ウツすべし。

家ニ在リテ家理マリ齊フ故ニ治、官ニ移スベシ。慈惠ナクシテ仁政ヲ行フコトアルナシ。

是以行成於内。而名立於後世矣。

(訓詁) 是コトを以カウて行ウチ、内ナに成ナりて、而シカウして名ナ後世コウセイに立ツクつ。

名ハ君子ノ求ムル所ニアラザレドモ名ハ實ノ實ナリ其實アルモノハ必ズヤ其名アリ苟モ死シテ名ノ稱セラレザルモノアルハ善ノ實ナキ爲ニ外ナラズ故ニ孔子曰ハク君子ハ世ヲ没シテ名ノ稱セラレザルヲ疾ムト宜ナルカナ。

閨門章第十九

本章ハ家庭内ノ禮儀ヲ述ブ

子曰。閨門之内。具禮矣乎。

(訓詁) 子曰はく、閨門の内、禮を具へたるかな。

閨門ハ小門、家庭ノコトナリ。閨門ノ内ハ恩ニ狎レ愛ニ偏シ親愛昵懇ノ私ニ流レ易シ故ニ家庭ノ内ニ在ルモ夫婦ノ別、長幼ノ序ハ嚴然トシテ保持シ一定ノ禮儀ハ自ラ具ハラザルベカラズ。

嚴親嚴兄。妻子臣妾猶百姓徒役也。

(訓詁) 親を嚴にし、兄を嚴にすれば、妻子臣妾は猶ほ百姓徒役の

如し。

諫爭章第二十

本章ハ臣子タルモノハ爭諫シテ忠孝ノ道ヲ盡スベキコトヲ述ブ

曾子曰。若夫慈愛恭敬安親揚名。參聞命矣。

(訓詁) 曾子曰はく、かの慈愛恭敬、親を安んじ名を揚るが若きは、

參、命を聞けり。

聞命矣トハ承リテ承知シテ居ルトノ意。

敢問。子從父之命。可謂孝乎。

(訓詁) 敢て問ふ、子父の命に従ふ、孝と謂ふべきか。

父ノ仰セ誤レル時モ絶對ニ服從スルコト是レ孝ト謂フベキカ。

子曰。參是何言與。是何言與。言之不通也。

(訓詁) 子曰はく、參是れ何の言ぞや。是れ何の言ぞや。言の通せざる也。

昔者。天子有爭臣七人。雖無道不失天下。

(訓詁) 昔者、天子に爭臣七人あれば、無道なりと雖も天下を失は

ず。

争臣ハ諫メテ非ニ盲從セヌ臣。

諸侯有<sub>二</sub>争臣五人<sub>一</sub>。雖<sub>レ</sub>無道<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>失<sub>二</sub>其國<sub>一</sub>。大夫有<sub>二</sub>争臣三人<sub>一</sub>。雖<sub>レ</sub>無道<sub>一</sub>不<sub>レ</sub>失<sub>二</sub>其家<sub>一</sub>。

(訓詁) 諸侯に争臣五人あれば、無道なりと雖も其の國を失はず。

大夫に争臣三人あれば無道なりと雖も其家を失はず。

殷ノ紂王無道ナリト雖モ箕子、比干ノ諫臣アリ。吳王夫差無道ナリト雖モ伍子胥ノ賢臣アリタルガ如キヲ云フ。

士有<sub>二</sub>争友<sub>一</sub>。則身不<sub>レ</sub>離<sub>二</sub>令名<sub>一</sub>。

(訓詁) 士に争友あれば、則ち身令名を離れず。

令名ノ令ハ美ナリ、善ナリ、評判ノ善キ名聲ナリ。

父有<sub>二</sub>争子<sub>一</sub>。則身不<sub>レ</sub>陷<sub>二</sub>於不義<sub>一</sub>。

(訓詁) 父に争子あれば、則ち身不義に陥らず。

故當<sub>二</sub>不義<sub>一</sub>。則子不<sub>レ</sub>可<sub>下</sub>以不<sub>上レ</sub>争<sub>二</sub>於父<sub>一</sub>。臣不<sub>レ</sub>可<sub>下</sub>以不<sub>上レ</sub>争<sub>二</sub>於君<sub>一</sub>。

(訓詁) 故に不義に當るときは、則ち子もつて父に争はずんばあるべからず。

君臣ト朋友ハ義ヲ以テ合フモノナリ故ニ過チアレバ諫ム、三タビ諫メテ聽カザルトキハ去ル。父母過チアルトキハ気色ヲ取テ諫ム、父母從ハザルトキハ敬シテ其気色ヲ冒サズ論語里仁ノ篇ニ父母ニ事フルニハ幾諫ス、志ノ從ハザルヲ見テハ又敬シテ違ハズ勞シテ怨ミズトアリ。ドコ迄モ熱心ニ然カモ機ヲ見テ懇ロニ諫メザルベカラズ。

故當<sub>二</sub>不義<sub>一</sub>則争<sub>レ</sub>之。從<sub>二</sub>父之命<sub>一</sub>又安得<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>孝乎。

(訓詁) 故に不義に當れば則ち之れを争ふ。父の命に従ふのみならず

ば又安んぞ孝たることを得んや。

事君章第二十一

本章ハ君ニ事フル義ヲ述ブ

子曰。君子之事<sup>レ</sup>上也。進思<sup>レ</sup>盡忠。退思<sup>レ</sup>補過。

(訓詁) 子曰はく、君子の上<sup>カミ</sup>に事<sup>ツカ</sup>ふるや、進<sup>ス、イ</sup>ては忠<sup>チウ</sup>を盡<sup>ツク</sup>さんことを

思<sup>オモ</sup>ひ、退<sup>シリア</sup>きては過<sup>アヤマチ</sup>を補<sup>オギナ</sup>はんことを思<sup>オモ</sup>ふ。

君子ハ孝子。補ハカクシテ非ヲカザルコトニアラズ、己ガ過チハ表ハシテ速カニ改ムルコトナリ。

將<sup>ニ</sup>順其美<sup>一</sup>。匡<sup>ニ</sup>救其惡<sup>一</sup>。故上下能相親也。

(訓詁) 其美<sup>ソノビ</sup>を將<sup>シヤウ</sup>順<sup>ジュン</sup>し、其惡<sup>ソノアク</sup>を匡<sup>キヤウ</sup>救<sup>キウ</sup>す。故<sup>ユエ</sup>に上下能<sup>シヤウカヨ</sup>く相親<sup>アイシタ</sup>しむ。

將順ハヒキタテルコト、美德ヲ助ケ順テ之ヲ行ハシムルコト。匡救ハ危キヲ救フコト。

詩云。心乎愛<sup>レ</sup>矣。遐不<sup>レ</sup>謂矣。中心藏<sup>レ</sup>之。何日忘<sup>レ</sup>之。

(訓詁) 詩<sup>シ</sup>に云<sup>イ</sup>ふ、愛<sup>アイ</sup>に心<sup>ココロ</sup>せば、遐<sup>ナン</sup>ぞ謂<sup>ツ</sup>げざらん。中心<sup>チュウシン</sup>之<sup>コレ</sup>を藏<sup>カク</sup>す、

何<sup>イッ</sup>れの日<sup>ヒ</sup>か之<sup>コレ</sup>を忘<sup>ワス</sup>れん。

詩ハ小雅隰桑ノ篇ニシテ幽王ノ時君子ノ用ヒラレザルヲ刺リテ作りタル詩ナリ、小人位ニ依リテ君子野ニアリ故ニ民衆ハ君子ヲ愛スルニ常ニ心ヲ要ス故ニ君子ニ何故出仕セザルヤト告ゲザルヲ得ザルナリ君子ヲ思慕スル念ハ中心ニ藏シテ何レノ日カ忘ル、コトナシトノ意。心乎愛トハ愛乎心ト文字ヲ用フベキ筈ナルモ愛、謂、藏ノ如キ韻字ヲ調ヘル關係上如此用ヒシモノニテ心ヲ愛スルノ意。

喪親章第二十二

本章ハ親ノ喪ニ服スル心得ヲ述ブ

子曰。孝子之喪<sup>レ</sup>親也。哭不<sup>レ</sup>偯。

(訓詁) 子曰はく、孝子<sup>カウシ</sup>の親<sup>オヤ</sup>を喪<sup>モ</sup>するや、哭<sup>コウ</sup>して偯<sup>イ</sup>せず。

哭ハ哀痛ノ極、聲ニ發スルコト。偯ハ依ニシテ號泣シテ氣衰ヘ精盡キ餘聲ナキコト。

禮不<sup>レ</sup>容。言不<sup>レ</sup>文。服<sup>レ</sup>美不<sup>レ</sup>安。聞<sup>レ</sup>樂不<sup>レ</sup>樂。食<sup>レ</sup>旨

不<sub>レ</sub>甘。

(訓詁) 禮、容はず。言文らず。美を服するも安んぜず。樂を聞<sub>ク</sub>も樂<sub>ク</sub>しません。旨きを食<sub>ク</sub>ふも甘<sub>ク</sub>からず。

哀痛貌ニ顯ハレ禮ヲ行フモ躰整ハズ、服裝身仕舞等容儀修ムル能ハズ、言文ヲ飾ルノ餘裕ナク、味覺モ鈍ル。

此哀戚之情也。

(訓詁) 此れ哀戚の情なり。

哀戚ハカナシミイタムコト。

三日而食。教<sub>下</sub>民無<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>死傷<sub>レ</sub>生。毀不<sub>レ</sub>滅<sub>レ</sub>性。此聖人之政也。

(訓詁) 三日にして而して食するは民に死を以て生を傷ることなく、

毀なふれども性を滅さざることを教ふ。これ聖人の政なり。

喪後三日ヲ經テ普通ノ食ヲ取ルハ死者ニ對スル禮ヲ以テ自己ノ生ヲ損傷シ哀毀ノ情ニ過ギテ性ヲ滅シ身ヲ亡スコトナキヲ教フ。

喪不<sub>レ</sub>過<sub>二</sub>三年<sub>一</sub>。示<sub>二</sub>民有<sub>レ</sub>終也<sub>一</sub>。

(訓詁) 喪三年に過ぎざるは、民に終りあるを示すなり。

昔ノ定メラレタル喪制ニハ宗子ニハ三年、次男ヨリハ一年、伯父、兄弟、甥ハ十三ヶ月、母方ハ從弟ハ九月、又從弟ハ五ヶ月、叔父及妻ノ父母ハ三ヶ月、母方ハ從弟ヨリ喪ナシ祖父ト孫ハ一年、曾祖父ハ五ヶ月、曾孫ハ三ヶ月、父母ノ喪ハ三年トス。

爲<sub>二</sub>之棺槨衣衾<sub>一</sub>以<sub>レ</sub>舉<sub>レ</sub>之。

(訓詁) 之が棺槨衣衾をつくりて以て之を舉し。

棺ハ死者ヲ納ル、函、槨ハ外棺、衣ハ死者ニ着スル衣、衾ハ尸ヲ覆ヒ又ハ尸ニ敷ク單被。舉ストハ尸ヲ舉ゲテ棺ニ納ル、ヲ云フ。

陳<sub>二</sub>其簋簠<sub>一</sub>而哀<sub>二</sub>戚之<sub>一</sub>。

(訓詁) 其簠簋を陳ねて而して之を哀戚し。

簠簋ハ祭器具、圓ナルヲ簠ト云ヒ方ナルヲ簋ト云フ。戚ハ悼ミ。

擗踊哭泣。哀以送之。卜其宅兆。而安措之。

(訓詁) 擗ヘキヨウコクキウ踊カナシ哭泣、哀みて以て之を送る、其の宅兆タクテウを卜して、而し

て之を安措す。

擗ハ手ヲ以テ胞ヲ打ツ、踊ハ足ヲ以テ地ヲウツナリ。號泣慟絶ノ貌ナリ。宅ハ墓穴、兆ハ塋域トテ墓地ノ境内ナリ。安措ハ安置ノコト。

爲之宗廟。以鬼享之。春秋祭祀。以時思之。

(訓詁) 之ソウベウが宗廟ツクを爲り、鬼キを以て之を享し。春秋シュンジュウに祭祀サイシし時を以

て之を思ふ。

宗廟ヲ造リテ享リ四季ノ祭祀ヲナシテ思慕スルナリ。

生事愛敬。死事哀戚。生民之本盡矣。死生之義備矣。

(訓詁) 生セイには事ツカへて愛敬アイケイし、死シには事アイセキへて哀戚アイセキす。生民セイミンの本モトツ盡き、

死生シセイの義備ヤソナはる。

生民ハ民ノコト、民ハ天ノ生ズル所ナリ故ニ生民トモ烝民トモ云フ。

孝子之事終矣。

(訓詁) 孝子カウシの事コトオワ終れり。



### 跋

予一日孝經ヲ索メント新古書林ノ軒ヲ列ネシ街ヲ漁ル、徒ラニ足ヲ  
疲ラセ遂ニ一本ノ孝經ヲ覓ムルコトヲ得ザリキ。竊カニ思フニ、今世  
斯カル古典ノ影ヲ潜ムルハ舊ヲ厭ヒ新ヲ追フ時代思想ノ然ラシムルナ  
ランモ亦東洋文化ノ價值ト精華トヲ閑却セルニアラザルカ。輓近何事  
モ西洋ヲ宗トシ之ニ由リ、之ヲ模倣セザルモノヲ指シテ時勢ニ疎シト  
ナス、甚シキハ家屋生活ヲモ是ニ模シ英語ヲ談ジ、踏舞音樂ヲナシテ  
曰ク文化生活ト、斯クシテ終ニ西洋人ノ隸屬奴輩タルニ甘ンズルナキ  
カ又自ラ顧ミテ屈辱ヲ感ズルコトナキカ。世ニ菊ヲ愛スル人アリ土壤  
施肥ニ意ヲ用ユ、偶々之ニ南瓜ヲ移植スルモ不可ナリ、菊ノ爲メノ土  
ハ南瓜ノ適スル畑ニアラザルナリ。西洋ニハ西洋ノ歴史アリ、道德ア

リ、才能アリ、我レニハ我が祖先ト道德ヲ擁シテ我が才能ヲ發揮スベキナリ。古來未ダ嘗テ外夷ノ侮リヲ受ケザリシハ我レニ一貫シテ優レシ何物カ存スル故ナリ、何物トハ物質ニアラザルナリ又必ズシモ藝術ニアラザルナリ、之ヲ名付ケテ日本魂ト云フ、更ニ別ノ言葉ヲ以テスレバ孝道ト云フ。之ヲ書トシ傳ヘタルハ支那ニシテ、孝經ハ聖人ノ言ナルモ彼邦ニハ單ニ文字ノ外形ノミ存シ眞諦ヲ味了體得シテ實踐躬行セルハ我邦ナリ、然ルニ今ヤ此ノ誇ルベキ魂ノ影薄ラギ孝道終ヒニ廢滅セントス、慨嘆ニ堪ヘザルナリ。

予ハ今年三月九日先妣梅室豐順大姉二十五周忌ニ當リ孝經ヲ版刻布施センコトヲ志シ、耽讀スルコト數夜ニ迨ブ千載不磨ノ聖言ニ觸レ喟然トシテ膝ヲ正シ先妣ノ靈ニ對シ此機會ノ與ヘラレタルコトヲ感謝スルモノナリ。孝經ニ孝ハ德ノ本、教ノ由テ生ズル所トアリ推究スレバ親

ニ事フルニ始マリ君ニ事フルニ中シ身ヲ立ツルニ終ル。天子章ニハ愛敬ヲ説キ庶民章ニハ身ヲ謹ミ用ヲ節スルコトヲ述ブ、然リト雖モ孝道ノ原理ハ天經地義ノ自然法則ニシテ天地ト一貫セル道ニ外ナラズ。文献ヲ徵スルニ往昔 孝謙天皇天平寶字元年勅シテ宣ハク、民ヲ治メ國ヲ安ンズルハ孝治ヲ以テス、百行ノ本之ヨリ先ナルハナシ家毎ニ一本ヲ藏シ精勤誦習セシムベシ。ト而シテ普ク流布セシハ 後陽成天皇文祿二年木活字ニテ古文孝經ヲ印刷セシメ給ヘリ、コノ古文孝經ハ所謂慶長勅版ノ濫觴ニシテ又我國ニ於ケル孝經印行ノ嚆矢ナリ。此ヨリ以後汎ク民間ニ藏スルニ至ル。今回予ノ版ヲ起スヤ傍訓ヲ施シテ兒童ノ暗誦ニ便シ、又濫リニ註釋ヲ加ヘ大方ノ噍笑ヲ招カンコトヲ虞レザルニアラザレドモ陳吳ニ繼デ起ランモノヲ俟ツノミ。

林 長次郎謹言

321  
116

三  
經

昭和四年四月十日印刷  
昭和四年四月十五日發行

大阪市港區四條通二丁目二三

發行者 林 長次郎

大阪市西區江戶堀南通一丁目四一

印刷人 福 井 成一

大阪市西區江戶堀南通一丁目四一

發行所 林 歐文堂

終

